

〈論文〉

there 構文と俳句

葛西清蔵

0. この稿では, there 構文の性質には, 俳句の描写の仕方にきわめて近い性質があることを示そうとする。つぎのような章立てで議論をすすめる。

1. there 構文の性質
 - 1.1 性質 (その1) 「新情報」
 - 1.2 性質 (その2) 「一時的」
 - 1.3 性質 (その3) 「こと」
2. 俳句の視点: 「一こま」をめぐって
 - 2.1 加藤 (2007)
 - 2.2 虚子 (1965) と子規 (1984)
3. まとめ

1. there 構文の性質

1.1 性質 (その1) 「新情報」

筆者は葛西 (2007) において, 以下のような例文から, there 構文の性質を論じた。つぎの例文を見よう。

1. a *There is the car of John in the street.
- b There is a car in the street.

c A: What is there to go to around here?

B: ?Well, there isn't the Washington Monument anymore ... that was swept away in the flood. (荒木 1986 : 783)

(1a, b) からは、よく知られているように、there 構文には 'definite' なものは来ることはできないことを示していることになる。しかし、これは there 構文は definite なものをすべて拒否するものではないことは、許容度はやや落ちるが、(1c) の A に対する B を見れば明白である。Definite (定) なものでも「新情報」として提示されている時には許容される可能性があるのである。この構文で indefinite 「不定」なものがきやすい、というのは、「不定」なものが「新情報」になりやすいからにすぎない。

1.2 性質 (その2) 「一時的」

2. a ?* There were several students tall.

b There were several students ill. (Quirk et al. 1985 : 1405, 荒木 1996 : 387)

c * There was a Canadian a good doctor. (安井 1996 : 813)

ここに見られるように、この構文で許されるのは、tall のような半永久的な性質 (permanent property) (Quirk et al. 1985 : 1405) を表わすものではなく、ill のような一時的状態 (temporary state) (Huddleston and Pullum 2002 : 1394) を表わすものでなくてはならない。(3c) の非文も a good doctor も一時的なものでないことが原因であることは明白である。

1.3 性質 (その3) 「こと」

1.3.1 「こと」性質 : 1

3 There are some pages missing in the book.

ここでは there are some pages となっているが、あとに missing とあるから、some pages が「存在する」わけではない。「存在する」のは some pages missing という nexus つまり「数頁がかけている」という「こと」である。「こと」を「もの」的に表現するの

は英語ではよくあることはつぎの例でもわかる。

- 4. a No news is good news.
- b S (PS2) VP (21) Jespersen (1971: 52)
- c ‘receiving no news’ Quirk et al. (1985: 792)
- d ‘there not being any news’ (村田 2005 : 175)

(4a) の No news は (4c, d) でみるように「便りのないこと」と解され, (4b) では, この部分が S, P のように, 意味上の「主語」, 「述語」の組み合わせとして示されている。つまり, ここでは「こと」が no news というように「もの」的などらえかたで表現されている。このことは there 構文でも見られ, つぎのような例は, はっきりこれを示している。

- 5. a There is a bird singing.
- b There is Father waiting for you.

中島 (1961 : 193-4) によれば, (5a) では「鳥の鳴くあり」, (5b) では「父の汝を待つあり」というように, 「鳥が鳴いている」, 「父が待っている」という事態・「こと」がある, とするのである。A bird singing, Father waiting for you はまさしく nexus であり, ‘a nexus is like a drama or a process’ (Jespersen 1977:95) というように, 時間の経過とともに, 刻々と変化して行くものである。

1.3.2 「こと」性質 2

There 構文でみてきた事実は以下のことと符合するようである。

- 6. a You won’t catch him John doing anything that involves hard work.
- b ?You won’t catch him do it twice. (Palmer 1987)
- 7. a In this photograph you can see Jane blink.
- b * In this photograph you can see Jane blinking. (Kirsner and Thompson 1976)

筆者は (葛西 2004) において, (6), (7) により, Ving は, V の表わす, 状態・動作

の「一こま」を表現すると結論した。このことを念頭につぎの例を見よう。

8. a *There is a student read a book in the room.
b There is a student reading a book in the room.

(8) では、read の Ving しか許容されない。このことからすると、上で見てきた事実は、there 構文について、つぎのように特徴づけることができる。

9. there 構文は、ある場面・「こと」がらの「一こま」をそのままを「新情報」として提示したもの、

であるといえるであろう。

2. 俳句の視点：「一こま」をめぐって

2.1 加藤 (2007)

加藤 (2007 : 76) には俳句について、つぎのような表現がある。「芭蕉自身が、俳句を短歌…と区別して、瞬間的経験の表現と考えていたことに注意すれば足りる。その経験は感情的ではなく、感覚的であり、知覚の対象 (外界) と内心との一種の交感であって、「瞬間的経験の表現」と考えていたという指摘、これを「たちまち起こり、たちまち消え去る」としているのはこれは、まさしく場面の「一こま」である。

有名なつぎの句を見よう。

10. a 「古池や 蛙とびこむ 水の音」

- b The old pond;
A frog jumps in, —
The sound of water. (R. H. Blyth)

- c The ancient pond —
A frog jumps in,

The sound of water (D. Keene)

(Wright 2007: 360)

ここで描き出されているのは、まさしく「一こま」である。加藤（2007：115）には「スナップ・ショット」という、そのものずばりの表現がある。

2.2 虚子（1965）と子規（1983, 1984）

2.2.1 虚子（1965）

芭蕉のこの句について、高浜虚子（1965：12）は「古池の水が温み始め、蛙の水に飛び込む音の聞こえるという陽春の一現象が強く彼の心を打った」。「芭蕉はその事のうちに深い感動を覚えた」（1965：10）という。

2.2.2 子規（1983, 1984）

しかし、正岡子規（1983：185）は、「意義においては古池に蛙が飛び込む音を聞きたりといふ外、一毫も加ふべきものあらず、もし一毫だもこれに加えなば、素は古池の真相に非るなり」とあり、そして、「芭蕉が古池の句につきて感じたる処はこの自然にあり」（1983：12）という。

これらのことを考えあわせると、高浜には「心を打った」とか「深い感動を覚えた」とかの主観的な表現があるが、子規では場面そのものを、そのまま提示する^{(1), (2)}という点では、加藤の主張に近い。芭蕉は「具体的であること、即物的であること」を旨とした（上野 2005：27）。「客観的なものを文学以外として排除すべからず」（正岡 1984：29）と、その例としてあげた句、

11. a 五月雨や垣根に白き草の花 瘦柳

また、芭蕉の『おくのほそ道』の

b 象潟や雨に西施がねぶの花

(Kisakata —

Seishi sleeping in the rain,

Wet mimosa blossoms.)

(キーン訳 2007: 112)

さらに、日本語の俳句の 5.7.5 の 15 文字にあわせた、17 音節をめざす英語の 'Haiku' の例を Wright (2007) に見よう。

12. A bright window pane
With one slowly crawling fly
Against a still cloud.

(Wright 2007: 75)

これらは、まさしく、ある場面の「一コマ」をそのまま提示している文と考えるのがあ
たっているようである。

3. まとめ

まとめとして、つぎの 14a. b を見よう。(9) で見た *there* 構文の性質のまとめを (14b) としてくり返す。)

14. a 「俳句という芸術は、必要な未知の情報だけを畳こんで投げ出し、一つの世界
を十七文字の中に提出する」。(大野 1978: 32)
b 「*there* 構文は、ある場面・「こと」がらの「一コマ」を「新情報」として提示
したもの」

(14a, b) は、ある「こと」がら、場面の「一コマ」を切り取って、そのまま提示したも
のである、という点で共通であり、つぎの大岡 (202: 34) の「俳句でもそうですが、人
生のある瞬間のある出来事、…それをパッととらえて、それをそのまますぐ言葉にする」
とか「目の前の光景をスナップショットのように切り取る」四方田 (2007: 48) というの
もこれである。俳句はまさしく *there* 構文の世界である。

注

- (1) 「古池や蛙とびこむ水の音」について、上野（2006：23-24）は「蛙と聞けば、誰しもその鳴き声によって晩春の哀感を連想する。そのことを認め、受け入れつつ、その本意・本情をそのままに生かしながら、同じ意味を「鳴き声・あはれ」などを用いないで表現しているのである」といっているのも主旨は同じであろう。
- (2) 坪内（2006）も参照。

参考文献

- 荒木一雄（編）1986『英語正誤辞典』研究社
- Huddleston, R. and G. K. Pullum 2002 *The Cambridge Grammar of the English Language* Cambridge Univ. Press
- Jespersen, O. 1937 *Analytic Syntax* Senjoshuppan
- Jespersen, O. 1977 *Essentials of English Grammar* George Allen and Unwin
- 葛西清蔵 2004 「‘(be) Ving’ の意味と特質」『英語学点描』アイワード, 49-62
- 葛西清蔵 2007 「知覚動詞構文と there 構文」『言語と文化』67
- 加藤周一 2007『日本文化における時間と空間』岩波書店
- Kirsner, E. and S. Thompson 1976 'The role of pragmatic inference in semantics' a study of sensory verb complements in English' *Glossa* 10: 200-240
- 松尾芭蕉（ドナルド・キーン訳）2007『英文収録 おくのはそ道』講談社
- 正岡子規 1983『俳諧大要』岩波書店
- 正岡子規 1984『松蘿玉液』岩波書店
- 中島文雄 1961『英文法の体系』研究社
- 大岡 信 2002『日本語つむぎ』世界文化社
- 大野 晋 1978『日本語の文法を考える』岩波書店
- 大輪靖弘 1995『芭蕉俳句の試み』南窓社
- Palmer F. R. 1989 *The English Verb* (2nd edition) Longman
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and J. Svartvik. 1985 *A Comprehensive Grammar of the English Language* Longman
- 高浜虚子 1960『虚子俳話』東都出版
- 坪内文明（編）2006『季語集』岩波書店
- 上野洋三 2006『芭蕉の表現』岩波書店
- Wright, R. 2007 *Haiku*（「この別の世界」）木内徹・渡邊路子（訳）彩流社
- 安井 稔 1996『改訂版 英文法総覧』開拓社
- 四方田犬彦 2007『人間を守る読書』文芸春秋社